

日本の安全安心考えます!

セキュリティ研究 109 December 2007

特集 危機管理産業展 2007

Interview 青少年は「東京の宝」を政策のコンセプトに

東京都青少年・治安対策本部 総合対策部 青少年課長 青山彩子

企業戦略 株式会社スペース

注目の企業紹介 特定非営利活動法人 くらおび

しあわせ通信 bom to ball “バスケットのために生まれてきたぜ!!”

巻末特集

セキュリティ業界有力企業一覧



社会の変化から見たセキュリティ意識の変化



特定非営利活動法人 日本情報安全管理協会
常務理事 三浦 繁二

2004年3月、弊協会の資格制度スタートから早や3年半が過ぎた。盗聴器探査業界が市場から失った信頼の回復を目指し、知識・技能・コンプライアンスの三方向から本物のプロを養成し、現在では215名が全国で活躍している。加えて、弊協会では大手警備会社、大手引越会社との業務提携や、財団法人全国防犯協会連合、独立行政法人国民生活センター等、国の各関連組織との連携を整えてきた。「市民生活の安心と安全」、「企業活動の安心と安全」を語る中で、マスコミ各社の協力もあり、響きの悪さから避けて通っていた「盗聴・盗撮」の世界が、本来のセキュリティの一環としての位置づけ、すなわち「空間情報（音声情報）セキュリティ」として、急テンポで浸透してきている。

このような様々なフォローの風を受け、「市民生活の安心と安全」、「企業活動の安心と安全」の為に活動している中で、日本社会の変貌を肌で感じる時がある。一時代前の日本は、性善説の極めて強い社会であり、隣近所とも同心円的な安心感を持っていた。会社は絶対服従を求める代わりに、社員に温情と安心を与えた。しかし、この共同体構造は90年代に大きな変容を遂げた。グローバル化に日本経済が呑み込まれたこと、少子高齢化、人材の流動化とそれに伴う格差社会化が、その要因となっているらしい。格差社会化は社会から等質性を著しく失わせ、急速に古い日本は消滅していこうとしている。それは、人間関係や社会との関係の組み替えを余儀なくさせており、かつての固定化された「安心」、永続的な「友愛」はもう期待できない。「周りの人々は仲間だ」という良き時代は終わりに近づいていることを予感させる。多くの日本人はグローバルセンスが欠落しており、情緒過多の思考となり現状認識を誤る。そろそろ日本基準で世の中を見てはいけない時代を感じる。

先日、自民党と民主党の「大連立」をさぐる党首会談の舞台となった国会内の部屋では、事前に盗聴器が

仕掛けられていないかを調べる為、机や椅子をひっくり返す仰々しさであったと一部新聞等で報道されている。昭和30年の自民党総務会長の大半伴睦と民主党の三木武吉の保守合同劇との差を考えると良き時代の終わりは、やはり近いと思わされる。

盗聴器探査の現場も二極化されてきているように思う。「ちょっとした不安」、「たぶんないと思うが念の為」といった今まで表に出てこなかった層からの盗聴器探査依頼が増加傾向にある。それは、前筆したセキュリティ意識の芽生えであり、「市民生活の安心と安全」は、人任せにしたり、人を盲目的に信じたり、またむやみに疑いを持つのではなく、用心するといったセキュリティの基本に市民が目覚めてきた良い兆候だと喜んでいいと思う。

しかし、反面では被害妄想的な依頼は更に深刻化を深めている。プロの資格を持つ情報安全管理士が探査をしても、「ないはずはない」と言い張り、次のコンサルティングへ移れなく困らせる場面も多々ある。依頼の原因は近隣の人々への不信感からといった自分で勝手に作り上げた人間関係のトラブルが目につくようになった。そんなに隣近所の人々が不信ならば引越したらとのどまで出かけることもしばしばである。

企業においては、「法人の探査も必要だと思うが、回りもやっていないので今回は見合す」という日本的な思考の社長が多かったが、最近では「うちには必要だと思うので、探査を依頼したい」というヨーロッパ的な思考の社会も増加している。

このような様々な変化に対応すべく、我々も更に専門技術のスキルアップを図り、単に盗聴・盗撮の有無・発見に留まらず、安心と安全を守ることにより社会貢献できる組織として、自己研鑽に励み、顧客の真のニーズに添えていく為、盗聴・盗撮対策はセキュリティの一環と位置づけ、邁進していかなければならないと考えている。

第18回 通信傍受対策技士二種 資格認定試験ご案内

一般的に企業の機密情報は歴史の分だけ、その情報通信傍受対策技士とは、盗聴器・盗撮機器の探査を実施するための技術、知識、コンプライアンスを有し、そのセキュリティに関する水準が認められた方を言います。

1. 情報安全管理士・通信傍受対策技士の業務

- 盗聴器・盗撮機器の探索・発見業務
- TSCM（テクニカル・サーベランス・カウンター・メジャー：電子的監視対抗措置）
- 盗聴・盗撮対策のセキュリティコンサルティング
- 建物内の情報漏洩ルートの分析・レポート
- 新盗聴技術に関する対策技術研究・開発

2. 資格取得のメリット

- これまで、ガイドラインのなかった通信傍受対策技術を一元化された基準において、資格認定を受けることによって、顧客からの信用をより一層深めます。
- 経験者もこれまで自己流だった技術・知識を客観的に試すことができるチャンスです。

3. こんな方に適しています

- 盗聴器の探査・発見業務に従事している方
- 盗聴対策技術に興味のある方
- 一般住居の防犯関連の仕事をされている方
- 企業内情報セキュリティのご担当者
- 盗聴器・盗撮機器に対して自分自身で防衛したい方

4. 開催予定

資格種別	回次	開催日	開催地(受験会場)	定員	受験申請受付期間
二種	第18回	2008年1月27日(日)	東京会場	50名	07/11/21(月)～08/1/18(金)

5. お申込について

募集期間の間、当協会のホームページ上にて「受験申込書」をダウンロードして必要事項を記入の上、FAX または郵送にてお申込みください。受験申込書を受付次第、受験票等の関係書類を送付させていただきますので、受験申請手続きを行ってください。詳しくは協会事務局までお問合せください。

- URL : <http://www.jilcom.or.jp>
- TEL : 03-5765-7677 FAX : 03-5765-3181
- 郵送 : 日本情報安全管理協会 事務局宛
〒108-0073 東京都港区三田 2-14-5 7F

6. 試験当日のタイムテーブル（※時間割は会場の都合などにより、一部変更することもございます。）

第18回 二種 2008年1月27日(日)

10:00	会場受付開始
10:15～10:30	協会挨拶・連絡事項
10:30～12:00	筆記試験（90分）
12:00～13:00	休憩
13:00～17:00	技能試験（実技）
	面接試験



使用テキスト

お問い合わせ先

特定非営利活動法人 日本情報安全管理協会 事務局

〒108-0073 東京都港区三田 2-14-5 7F

TEL : 03-5765-7677 FAX : 03-5765-3181

URL : <http://www.jilcom.or.jp> E-MAIL : jilcom@aioros.ocn.ne.jp